



高松日和

令和7年1月14日
【第50号】
(校長版学校便り)

“慰霊の日”に臨み…。



「1月10日」は本校にとっては決して忘れてはならない“慰霊の日”です。今から33年前の平成4年1月10日、当時2年生の小野寺仁君が、同じ飯田高校生に学校敷地内で刺殺されるという、言葉では表現できないとても悲しい事件が起こりました。



今年の1月10日は、朝の冷え込みが厳しかったですが、全校放送での校長講話に引き続き、小野寺君が亡くなった場所に建っている『いのち』の碑の前で、県教育委員会や学校職員、生徒自治会代表など一堂に会しての『慰霊式』を執り行いました。飯田高校に関わる全ての人が、仁君の無念さやご家族の深い悲しみと憤りを顧みるとともに、事件の後生徒自治会で決議した『高松92宣言』（“規律ある学窓”と“反暴力”）の遵守を改めて確認しました。



故 小野寺 仁さん 慰霊の詞

小野寺 仁さん、あなたの尊い命が奪われた悲しい日が今年もめぐってまいりました。本日ここに、県教育委員会、本校教職員、並びに生徒自治会執行部の生徒が参列し、「慰霊の式」を催行するにあたり、代表して「慰霊の詞」を述べさせていただきます。

三十三年前の今日、仁さん、あなたは、仲間と切磋琢磨しながら充実した高校生活を送り、将来の夢を語り合い、その実現に向けて歩を進めている途中、安全、安心であるはずの学校で突然命が奪われ、ごく当たり前の日常生活や将来の夢も断たれてしまいました。

あの日から三十三年という歳月は過ぎましたが、私達、飯田高等学校に関わる全ての者は、仁さんの身の上で起こった悲惨で痛ましい出来事、また変わり果てた姿で帰宅した仁さんと対面したご両親の深い悲しみと憤りに思いを致すとき、申し上げる言葉も見つからず、ただひたすらに哀悼の意を捧げるばかりです。そして、あなたの御霊をお慰めするために、今後私たちが果たすべきことは、この悲しい事件のことを決して風化させることなく、これまでも、そしてこれからも飯田高等学校に関わる全ての者が、深い反省のもと事件の教訓に学ぶこと以外にはないということをお誓い申し上げます。

平成四年以来、わたくしども教職員は、安全・安心な学校づくりのため、絶えず検証すべき責務を負い、日々取り組んでまいりました。これからも生徒への安全配慮義務、指導監督義務を果たすべく努力を重ねてまいります。また、生徒自治会は「高松92宣言」において『規律ある学窓』『反暴力』を誓い、機会あるごとに皆で確認し、共有しております。

最後に、私たち参列者すべての深い反省と決意、そして祈りと鎮魂の思いが、亡き仁さんの御霊に届くことを衷心より祈念して、慰霊の詞といたします。

令和七年一月十日

長野県飯田高等学校職員一同
代表 学校長 駒瀬 隆